

デジタルアーカイブ理論の変遷

Change in digital archive theory

Change in digital archive theory in digital archivist
education

デジタルアーキビス養成における
デジタルアーカイブ理論の変化

井上透 岐阜女子大学デジタルアーカイブ研究所



デジタルアーカイブ概念の変遷

	第1世代 (1995年～)	第2世代 (2005年～)	第3世代 (2015年～)
対 象	文化遺産、オーラルヒストリー	科学関係データ、自治体資料、産業遺産・資料、災害資料への拡大 (ソーシャルアーカイブ化)	コミュニティー、ファミリー、パーソナルアーカイブへの拡大、クッキング等生活情報の増加
対象メディア	実物、作品、印刷物	デジタルメディア、インターネット等通信メディアへの拡大	ビッグデータ、SNS等のConsumer Generated Mediaへの拡大
実施主体	図書館、博物館、文書館、大学・研究機関の一部	図書館、博物館、文書館、大学・研究機関の提供機関が増加、自治体・企業への拡大	多様な機関・団体・企業が提供を開始し知識基盤社会化への充実が始まった
権利処理	著作権中心	著作権に加え肖像権、個人情報保護への配慮	二次利用を進めるライセンス表示のための権利処理
提供形態	各施設内、ウェブサイト	各施設内、ウェブサイト（機能拡大）	リンクドデータベース、オープンデータ化、APIの公開、IIIF,DOIの世界標準採用による活用拡大
ユニバーサルデザイン	一般化していない	ユーザビリティ・アクセシビリティの改善	Web2.0、障害者差別解消法成立によるインクルーシブデザインの導入
評 価	各機関の評価に含まれないケースが多い	トップページ・ページビュー等アクセス数	検索エンジンのヒット件数、2次利用、リンクドデータ化、オープンデータ化等社会的評価が付加
アクセスデバイス	提供施設での利用、ネット利用によるPCからのアクセス	ネットによる施設・家庭でのPC、タブレットからのアクセス	高速ネットによる場所に限定されないPC,タブレット、スマートフォンからのアクセス

デジタルアーカイブに関する人材育成上の課題

- デジタルアーカイブの構築・連携を担う人材育成には、文化（対象）の理解、デジタルアーカイブ化の技術理解、関連法令と倫理の理解だけでなく、活用者の視点に立ってユニバーサルデザインを実現し、ニーズ分析、資料の選定、メディアの選定、ナレッジマネジメントの促進、市民参加型データ収集等に関わる各種能力が求められる。
- また、デジタルアーカイブを開発する**プロデュース力**、他機関との連携を進める**コミュニケーション力**等**マネジメント力**が求められる。特に中核的デジタルアーカイブ提供機関においては、アグリゲータやデータプロバイダとしての運営力が求められている。
- 残念ながら、デジタルアーカイブ化が拡大している各分野で、これらの能力を有し開発・運用・活用の担い手になる人材は不足している。

- したがって、現在のデジタルアーカイブ理論を
実現するためには人材育成の充実のための**デジタル
アーカイブ経営論**というべきマネジメントのため
の人材養成プログラムの開発が喫緊の課題
- デジタルアーカイブに関する人材育成には、常に
発展を続ける理論や技術への対応と、対象の広が
りにより求められる技量とのマッチングが必要に
なっている。
- したがって、資格取得者に対する**リカレント教育
の必要性**が極めて高いと言わざるを得ない。その
ため、デジタルアーカイブ学会への入会などを勧
め、継続的な情報の収集と技能習得を資格取得者
にお願いせざるを得ない状況である。